

## R6年度 学校自己評価の項目別考察と来年度への改善案

### 【0 めざす児童像】

- 「学びの基盤づくり」を大切にし、授業の流れや展開を共通理解して取り組むことで、児童が「自分の考えや意見をもち伝えること」「他の子の話や意見を聞くこと」の定着につながり、仲間とともに学び合う姿が育ってきている。
  - 授業者個人・学年での教材研究を深めて授業力向上を図る。
  - 「はじめの一人学び」「みんな学び」「おわりの一人学び」それぞれの学び合う視点を明確にした授業を計画し、成果や課題をもとに実践の改善をさらに進めていく。
- 自他のよさに気付き、適切なかかわりをもち、認め合うことのできる児童が増えている。反面、つまずきや失敗（嫌なこと・不安なこと・苦手なこと）への対応が苦手で、不適切な言動をとったりすぐ諦めたりする児童もみられる。
  - 学級・学年（同年齢集団）と異年齢集団の両面から人間関係づくりをとらえる。
  - 失敗を恐れず挑戦させる・やりきらせる活動・行事や、自己肯定感や自己有用感を得られる活動・行事を設定する。
  - 不安やストレスへの向き合い方や対処について、専門家と連携をして授業づくりを行う。
  - 児童の特性理解やそれに応じた適切な対応について、専門的な観点から研修を行い、情報共有と共通理解を進める。

### 【1 学習指導等】

- 声づくりの充実
  1. 一人ひとりが声を出す場面（音読・発表）を、教師が意識的につくる。
  2. 国語の時間の最初は、音読をする。読むことに慣れさせる。
  3. 音読や発表で大きな声を出すことを全員にさせきる。（あの子は無理だから…は×）教師の粘り強い取り組みが必要。
  4. 音読の目標を明確に示す。「大きな声ですらすら」は全学年の目標。学年が上がるにつれて、表現力をプラスしていく。
  5. 文読みや段落読みのあとは、教師の適切なコメント（評価語）を。褒めたり叱ったりしながら、個に応じた対応を。
  6. 特活や朝の学習、朝の会・終わりの会の時間を活用し、当たり前のことからもう一步進んだ取り組みを行う。

※声のコントロールも大切
- ひとり学び・みんな学びの充実
  1. ひとり学びの充実（書く力を鍛える）※孤立学習にならないように、個に応じた適切な支援を行う
  2. 聴く力、聞く態度を鍛える
  3. ペア学び・グループ学びも適宜取り入れる。
  4. みんな学び（話し合い活動・学びの基盤づくり・学級の雰囲気づくり）の充実。→みんなで学ぶのが楽しいなと思えるように
  5. みんな学び
    - ・教師が出すぎない・待つ・しめた！と思ってすぐにしゃべらない・おうむ返しを減らす・賛成意見をつないでいく
  6. 特支学級は、特に関わることが苦手な子が多い。かかわり合いを大切にする。ソーシャルスキルトレーニングも。

7. ノートづくり（ノート指導）の充実→学年やクラスに応じて、ノート検定を行う。ノートづくりの基本+各学年の目標。ネーミングの工夫。

○研究主題に向けた取り組み・学ぶ楽しさの共有化

できなかつたことができるようになった、わからないことがわかつた、何だろう（問い合わせ）、好奇心、新しいことを知る、わかつたことが使える。夢中になる、人それぞれ考え方が違うということを知る楽しさ、関連づける（単元・既習事項・学び）

1. 上記のことを教師が意識し、意図的に授業を仕組む。
2. 上記のことを行うための、基礎基本・ベースの部分も大切にする。
3. 振り返り（おわりのひとり学び）を意図的に行い、おもしろかった、楽しかったことを児童自身に意識させる。
4. 教材研究をしよう！
5. 教師の力量をアップさせよう！
6. 積み上げを大切にしよう！

【2 ICT機器を活用した授業の推進】

○年度初めにカリキュラムを含めて情報教育についての提案を行う。

○情報教育推進委員会の活性化を図る。

（ミニ研修の計画・実施、支援員さんとの連携、カリキュラム到達の確認の対応など）

○支援員さんとの連携の方策を策定する。

（来られる日の時間割の作成・掲示、相談シートの作成・活用など）

【3 小中学校間(滝野地区)の学びのつながり】

○児童生徒交流

- ・児童・生徒交流を実施するため、教科カリキュラムや年間行事予定を見て、年度末に計画を立てる。
- ・2小、小中の交流（対面だけでなく、学習成果交流やオンライン交流）についても、実施できる場面がないか検討する。

○教職員交流

- ・互いの授業を参観できる場がないかを検討する。
- （学校オープンへの参加、出前授業→授業参観、行事の参観など）

○育てたい力の共有

- ・滝野地域でのカリキュラムに合わせ、本校のカリキュラムを再度見直す。

## 【4 特別支援教育】

- サポートファイルや「個別の指導計画」を作成・活用がしやすいものにする。
  - ・サポートファイルの支援目標は1年間そして中学3年生までを見通した長期目標である。個別の指導計画は1年間を前期・後期に分けた短期目標で、より詳しく具体的に手立てや評価を記入することに価値がある。担任が変わっても、前年度に効果的であった支援を引き継ぐためのツールである。
  - ・年度初めの職員研修で、年間スケジュールや作成上の留意点を分かりやすく伝える。
  - ・定期的にエピソード記録や「個別の指導計画」の手立て・評価などの追記や見直しができるよう、声掛けをしていく。
  - ・新たにサポートファイルを作成する場合には、児童の実態把握をしたり、保護者との面談に同席したりする。

### ○効果的な交流及び共同学習を進める。

- ・特別支援学級児童の実態に応じて、教科・領域、評価、どう支援するか等について特別支援学級担任と交流学級担任が連携をする。
- ・年間指導計画を立案する段階で、国語や算数等の教科でも交流学習ができそうな単元については確認しておく。
- ・交流学級担任は特別支援学級担任に週案を前週の木曜日までに渡し、そのときに元の時間割からの変更点や留意点、共同学習できそうな学習内容などを伝える。
- ・通常学級の特別支援教育推進の視点からも、特支担任の同室指導や空き時間の交流指導等ができる範囲で行う。

### ○滝野地区小中一貫校の開校を視野にいれ、滝野中学校、滝野南小学校の特別支援学級との交流会を今後も続けていく。

### ○副籍児童との居住地校交流が継続して行われるように、特別支援学校のコーディネーター、担任と丁寧に打ち合わせをし、保護者と児童が安心して来校することができるような関係づくりをしていく。

## 【5-1～4 生活指導】

### ○離席・校内徘徊等の児童については、授業担当教師がすぐに把握し、職員室への内線で状況報告を確実に行う。授業担当教師は、該当クラスの児童の出席状況を確実に把握しておく必要がある。

### ○問題行動事案が発生した際は、一人で解決しようとせず、チームで連携して組織的に取り組む。報告・連絡・相談を徹底していく。また、問題行動事案（軽微なものは除く）の共通理解については、所定の書式に打ち込み、校支援の掲示板に挙げていく。

### ○移動教室の際は、二列に並ばせ、静かに移動することを徹底する。

### ○情報共有のシステム構築（学年打ち合わせ⇒ノート＆生指データ 入力）

### ○不登校を未然に防ぐ：PBS（ポジティブ行動支援）

### ○問題行動についての聞き取りフォーマット：箇条書きによる事実確認

### ○アンケートの精選：目的をはっきりさせる

（何のためにするのか、それで何を測定できるのか）

## 【5－5 ネットトラブル等の人権課題克服】

- 情報教育講演会は継続して実施する。
- 「市内ネット利用ルール」の遵守  
⇒子どもたちから挙がってくれば「滝野東小ネットルール」の策定も
- 保護者への啓発

## 【6－1～3 道徳教育・人権教育】

- 継続して、親子読書を2学期に行う。2学期の学校オープンでは、全学年道徳の授業を実施する。親子読書をする題材は学年ごとに指定する。
- 支援学級児童は、交流学級での道徳の時間の他、たんぽぽタイム同様支援学級での道徳の時間を設ける。 ⇒「道徳」のコマの取り方を検討
- 道徳の授業で扱った価値と日常生活をつなげる機会を設ける。  
終わりの会、学活などで、日常生活と価値と題材をつなげた振り返りをする。

## 【7－1 体育】

- 滝っ子体操の朝会配信を継続させる。
- 滝っ子体操の内容を柔軟性から、俊敏性向上やコーディネーショントレーニングに広げ、体力テストの長座体前屈の向上だけでなく反復横跳びや立ち幅跳びにつなげる。
- 昇降口に「速く走れるコツ」「遠くに投げられるコツ」などを掲示して、普段から体力向上につながるように意識させる。

## 【7－2 防災・安全教育】

- 防災
  - ・火災発生・不審者遭遇・地震発生への避難訓練を通して、児童の防犯・防災意識を高めていく。
  - ・防災教育教材をさらに活用して児童の防災意識を高める。
  - ・来年度も、引き続き年度初めに本校の安全設備概要を職員に周知する。
  - ・年度初めに配布する危機管理マニュアルに目を通してもらうようさらに啓発する。
  - ・体育館用具倉庫内の思わぬ場所にベルのスイッチがあった。掲示をしてもマットの出し入れによってすぐに外れるため、ラミネートで掲示する。
- 安全
  - ・引き続き、定期的に登下校指導を継続していく。
  - ・トラブルがあった際には、素早く対応できるよう登校班ごとに話し合いの場を設ける。

### 【7－3 食育】

- 社高生等の外部人材を活用したり、栽培したものを調理したりし、学年の発達段階に合わせた食に関する指導を年に1回は実施する。
- 年度末に、各学年で1年間の取り組みとして、新たに加えた内容や、残したい内容を考え、書き換えていく。次年度の教科書内容も確認し、更新する。

### 【8 働きやすい職場環境つくり】

- 会議の内容や、会議をきっかけとした業務改善について職員会議で報告や周知を行う。
- 前年度・当年度の授業時数累計や行事の振り返りをもとに、教育課程（時間割）の見直しと改善を継続して行っていく。
- 学校行事・PTA行事について、見直しと精選を図る。
- ICT機器の活用（会議等の時間短縮、タブレットの持ち帰りなど）を、業務改善のひとつとして個々のタイムマネジメントに生かす。

### 【9－1～3 学校・家庭・地域が一体となった豊かな教育環境づくり】

- かとう学の活用促進
- カリキュラムの内容を学年初めに確認
- 地域人材の方との打ち合わせ会での内容確認と終了時刻の設定

### 【9－4 「学習の手引き」を活用した家庭学習の充実】

令和7年度より実施できるよう、「滝野地域 家庭学習の手引き」の内容を全学年で共通理解し、活用していく。

- 定期的に子どもたちと確認したり、取組を学年（層）相互で共有したりして、振り返りや価値付けの機会とする。
- 高学年では、中学校の教科担任制を見越し、国・算以外の教科についても、家庭学習やチャレンジ学習への意識付けを図る。

### 【10 その他】

- 教師自身が、物を大切にすることや整理整頓などの意識を高め、クラスや学校全体での児童に対する意識付けの基盤とする。
- 各種委員会を定期的に開催して機能させ、業務改善の方策を考えていく。  
(個人情報の取扱い、会計処理、公費購入に際しての事務 他)
- 学校行事やPTA行事、保護者との連絡・連携に関して、それぞれの振り返りを活用し、精選や改善を図る。